

答申書（案）

答申①

まず、10年間の施策評価として、課題として挙がっていた散策路の整備、回廊コースの誘導サイン、駐車場、インフォメーションコーナーなど、回廊の基本施設が順を追って達成されている一方、インフォメーションコーナーの内容や使い方の充実、市民協働の参加者の高齢化、初期設備の劣化などといった課題がある。それらの課題を通じて、柳瀬川回廊のコースに周辺の文化財や自然を取り入れ、清瀬らしい地域資源を多方面にアピールすることによって、今まで柳瀬川回廊を知らなかった人に興味を持ってもらうこと、利用していない人にも利用してもらえるようにすること、最終的に、市民や利用者が地域への愛着を持ち、積極的に関わりを持つようになってほしいというのが、委員に共通する「柳瀬川回廊事業のあり方」である。

次に、「故伊藤氏寄附地の活用方法」について、柳瀬川崖線緑地（台田の杜）を隣接する寄附地まで拡大し、一体的な整備を図ることを提案する。台田の杜の南に隣接する部分は、寄附地の中では最も大きく、約0.8haあるため、現在は崖線緑地が大半を占める台田の杜と現在の利用方法を合わせた活用を考慮し、全体を3つにゾーニングし、交流広場、花畑、農園とすることを提案する。その他2か所は、将来の台田の杜全体のバランスを考えて、駐車場、台田の杜に植樹または補植するための苗圃、体験農園とする。

以上を踏まえ、今後のあり方の例を挙げる。その他は、別紙「柳瀬川回廊の今後のあり方について 報告書」に記載する。

興味を持ってもらうための施策

- ・市民参加しやすいイベントの開催
樹木調査や下草刈り等の軽作業、クヌギ、コナラ等の苗木の育成と雑木林再生のための補植、萌芽更新実験地のモニタリングなど。
- ・回廊コースの追加
文化財、名木、貴重種が残る緑地など、回廊コースの付近にある地域資源をつなぐ。回遊性を維持して文化財や自然景観を楽しむ「追加コース」、回廊コースから外れる周辺の文化財を「枝コース」で取り入れて紹介する。
- ・既存の案内板・サインの修繕
劣化が見られるサインや案内板の修繕を進めるとともに、定期的なメンテナンスの計画を立てること。

- ・インフォメーションコーナーの充実

簡易的な説明リーフレットの配布、関連するパンフレットや自然保護団体の会報などの掲示を進め、利用しやすくすること。また、ボランティア活動の場として、説明員の役割を担ってもらい、あるいは柳瀬川回廊を一緒に歩いて案内してもらおうといった、市民主体の取組みを検討すること。

利用者を増やすための施策

- ・「台田の杜」周辺へのトイレ新設

中里六丁目市有林や台田の杜など、植生豊かな崖線が続いているため散策客が多く、南側を公園として整備していくことも考慮して利便性を上げること。

- ・ウォーキングなどの目安として使える距離表示の新設

安全面に考慮しつつ、100m程度を目安に道路ペイントなどを利用して距離を分かりやすく示し、散策以外でも回廊を利用できるように距離表示の設置。

以上を通じて、利用者の裾野を広げていくこと、柳瀬川回廊への愛着を持ってもらうこと、そして、市民協働につなげていき、次世代にこの資産を引き継いでいくことが大事である。

これらを実施するにあたっては、目標を定め、そのために必要な手段（場所、時期と時間、進行手順など）を検討すること（P：Plan）、実行には、市当局、関係者による現地視察・調査を行い、「あるべき姿」を十分に議論し、合意形成をすること（D：Do）、実行後には、チェックする項目・内容を決めて、計画通りに実行できたかどうか検証すること（C：Check）、検証結果をもとに、計画通りに進んでいない部分の修正・試行（A：Action）を通じて、PDCAサイクルを確立すること。

市におかれては、今後、この答申をもとに、さらなる継続的な施策を進めていただきたい。そして、今後の柳瀬川回廊の管理に当たっては、地域特性を踏まえた市民に親しまれる良好な柳瀬川回廊となるよう、その発展を期待する。

答申②

別紙「柳瀬川回廊の今後のあり方について 報告書」のとおり。